

**新型コロナウイルス対応緊急支援助成  
事業計画（実行団体）**

事業名(主)	コロナ禍における依存者の緊急支援
事業名(副) ※任意	誰も弱者にしない志摩プロジェクト

入力数 主 16 字 副 16 字

実行団体名	特定非営利活動法人三重ダルク
資金分配団体名	プラスソーシャルインベストメント株式会社

**優先的に解決すべき社会の諸課題**

領域	分野
<input type="checkbox"/> 1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
	<input type="checkbox"/> ②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	<input type="checkbox"/> ③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
<input checked="" type="checkbox"/> 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> ④働くことが困難な人への支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
<input checked="" type="checkbox"/> 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> ⑥地域の働く場づくりの支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	<input type="checkbox"/>
------------------------	--------------------------

入力数 0 字

**SDGsとの関連**

ゴール
_3.すべての人に健康と福祉を
_8.働きがいも経済成長も
_11.住み続けられるまちづくりを
_17.パートナーシップで目標を達成しよう

実施時期	2021年6月 ～ 2022年3月	事業対象地域	全国 <input checked="" type="checkbox"/> 特定地域 ( 三重県 ) <input checked="" type="checkbox"/>	事業対象者： (事業で直接介入する対象者と、その他最終受益者を含む)	アルコール・ギャンブル・薬物等のアディクション（依存症）問題を抱える人、及び、重複する障害（知的障害や発達障害）のある人、地域在住の買い物や移動の支援を必要とする高齢者とその家族など。	事業対象者人数	約100人～200人
------	-------------------	--------	--	---------------------------------------	--	---------	------------

**I.団体の社会的役割**

<b>(1)申請団体の目的</b>
この法人は、依存症及び依存症に関連する諸課題を抱える人に安心できる居場所を提供し、身体的・心理的・福祉的支援を提供することによって、依存症からの回復の手助けをし、その人らしい自立した生活が送れるよう、アディクションに代わる新しい生き方（回復）の生きたモデルを提案し、相互変容の関係性から参加者の自尊感情を育てていくことで、参加者一人一人が自己肯定しながら豊かな社会生活を送れるよう支援することを目的とする。また、依存者・家族への直接支援だけでなく、関連する諸問題の解決のための資源構築、講師派遣、政策提言を行い、地域におけるネットワークを構築する。成果は研究報告され、広く一般に還元されるよう努める。
<b>(2)申請団体の概要・事業内容等</b>
1999年、市川岳仁が三重県津市に設立。当初は薬物依存からの回復を望む人たちの居場所（任意団体）としてスタート。以後、地域の依存者本人・家族の相談、受け入れ、支援を行ってきた。2006年NPO法人化。2006年より、三重県庁内における「薬物依存離脱指導教育」に講師派遣開始。現在に続く。同年、「依存症ネットワーク会議」を三重県健康福祉部に政策提言し、三重県こころの健康センターとの協働で実施。現在も続く。2007年頃より、依存症の背景に重複障害（知的障害や発達障害）を抱える人たちの支援をスタート。2009年より、東紀州地域における農福連携スタート。2013年、重複障害を持つ依存症回復者のための事業所「おかずやさん」（就労継続B型）を併設。現在は、アルコール、ギャンブル、盗癖などの幅広い依存症者を受け入れている。2016年より、三重県志摩地域にアウトリーチを行ない関係機関との連携を図っている。

入力数 (1) 300 字 (2) 400 字

**II.事業の背景・社会課題**

<b>新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題</b>
近年、依存症の分野では自己治療説が有力である。多くの依存者が従前から抱える被虐待、貧困、障害、社会的排除、ストレスなどの問題に対し、自己治療的に飲酒や薬物、ギャンブルなどにのめり込むとされる。それぞれの困難の中で、地域社会や他者に助けを求めることができず依存（自己治療）に陥ることから、依存症は孤立の病と言われている。コロナ禍においても依存症の増加が報告されている（※V(2)参照）。しかし、世間の依存症に対する偏見から、当事者・家族は助けを求める手を上げにくく、孤立を深めがちである。こうした傾向は、特に閉鎖的な田舎地方において顕著であり、三重県においては志摩地区がこれに当たる。志摩地区においては、1999年の三重ダルク開設当初から相談が多く寄せられる地域であったが、公共交通網や山間部を挟む地理的制限から、ダルクのある津市に通える人がほとんどいなかった。依存症の人たちに対する地域支援では、ダルクが1980年代より活動を続けており、この分野におけるパイオニアといえる。ダルクは依存症に関連するあらゆる経験を分かち合うグループ（対面）ミーティングを開催して、当事者・家族の受け入れを行ってきた。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により、こうした対面によるミーティングの開催に制限がかかっており、その影響（アルコール、薬物の再使用など）が出ている（※V(2)参照）。感染予防の観点から、新規相談者のタイムリーな来所相談（対面）もできにくくなっており、その影響は大きい。すでにダルクに繋がっている依存者にも影響が見られる。コロナ以前に比べ就職が困難になっており、回復してからの社会参加に影響が出ている。仕事が見つかりにくく、雇止め事例も多発している。また、従前から抱える障害（対人恐怖や知的・発達障害など）のために一般就労が困難なメンバーも多い。こうした状況に対し、緊急かつ包括的な解決が求められる。

入力数 798 字

### III.事業内容

<p><b>(1)事業の概要</b></p> <p>コロナによって顕在化した依存症者に対し、感染状況の低い三重県に新たな拠点を確保し支援を行う。志摩市は現在、高齢化が急速に進んでいる地域であり、高齢者の孤立を防ぐための様々な支援が求められている。今回のプロジェクトでは、就労・社会参加が困難になった依存症回復者を中心に、地域の高齢者の通院や移動の支援（輸送）、買い物の代行、弁当の配食等を行う事業を立ち上げる。依存症からの回復においては、従前から抱える障害（知的障害や発達障害など）のために一般就労が困難なメンバーも多いが、依存症を単に支援の対象（社会的弱者）とせず、「共生」という視点に立ち、彼らを地域の有用な資源として捉えた解決を目指したい。</p>
---

入力数 297 字

<p><b>(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態</b></p> <p>次年度以降も実施できる体制として、          高齢者の輸送・代行・訪問・販売に関する受注システムの確立と、志摩市民病院利用者を中心にサービス受益者が100名程度確保されていること。          設置された相談支援の拠点と給食事業を維持・継続のため、障害福祉サービス（地域活動支援センター/就労継続A型事業所を想定）事業所の認可が取れていること。          事業の進捗状況、課題共有のための地域ネットワーク会議が構築されていること。</p>
---

入力数 200 字

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染予防対策のされた直接支援（受け入れ）体制</li> <li>・コロナ影響下で就労困難になった依存者の雇用</li> <li>・孤立しがちな地域高齢者へのサービス提供</li> <li>・共生に向けた地域ネットワークの構築</li> <li>・全国への情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・志摩市に相談支援の拠点確保</li> <li>・高齢者に対するサービス開始（通院・移動・買い物・配食等）</li> <li>・ネットワーク会議の開催（当事者・関係機関による）</li> <li>・情報発信のためのホームページ開設</li> <li>・告知イベントの開催</li> </ul>	<p>年4回の運営会議（進捗状況の共有・課題の議論・新しいニーズの発掘等）を地域の関連機関（志摩市役所、志摩市民病院、包括支援センター、障害者相談支援センター、民生委員、NPO団体、プラスソーシャルインベストメント株式会社等）を交えて行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・志摩市内に相談支援・サービス拠点が確保されている。</li> <li>・相談支援5名・サービス提供者5名・管理者1名の専従職員がいる。</li> <li>・相談と受け入れは365日、給食は週5日の配食ができる。</li> <li>・志摩市全域に広範に事業が周知されている。</li> <li>・サービス受益者の拡大/本年度は100名目標</li> </ul>	<p>6-7月          拠点確保・リノベ          9月          相談支援開始・地域へのサービス開始          12月          事業継続のための準備          2月末          事業完了報告告知イベント</p>

(4)活動	時期
運営会議① 助成金受領及び使途の確認、役割分担確認	2021年6月
拠点物件の購入および改修（リノベーション）	2021年6月-8月上旬を予定
備品購入（事務機器・車両・厨房機器等）	2021年6月-7月
運営会議② 事業開始に向けた担当者会議、地域との擦り合せ会議	2021年8月中旬～下旬を予定
相談支援開始・地域へのサービス開始	2021年9月1日
運営会議③ 進捗状況・課題の共有、次年度以降の事業継続に向けた行政への申請内容確認	2021年11月下旬を予定
事業継続のための準備（申請）	2021年12月～
運営会議④ プロジェクト達成状況の確認、課題整理および広報イベントの打ち合わせ	2022年1月
広報イベント/事業完了報告	2022年2月

### IV.事業実施体制

<p><b>(1)メンバー構成と各メンバーの役割</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト事務局</li> <li>リーダー（管理者）1名・経理担当1名・通帳担当1名・監査担当1名</li> <li>・相談支援事業</li> <li>相談支援員6名（精神保健福祉士・弁護士・保健師・ピア（本人・家族）等）</li> <li>・サービス提供</li> <li>受注管理者（1名）・サービス提供者（ドライバー・介助者各2名、調理・配達員4名）</li> <li>・広報・イベント</li> <li>担当者2名</li> </ul>
<p><b>(2)他団体との連携体制</b></p> <p>以下の地域関連機関と連携体制にある          三重県健康福祉部伊勢保健所（志摩庁舎）、三重県心の健康センター、志摩市役所（地域福祉課・生活保護課）、志摩市民病院、県立志摩病院、志摩市包括支援センター、障害者相談支援センター、民生委員、NPO団体</p>
<p><b>(3)想定されるリスクと管理体制</b></p> <p>想定されるリスク：          助成金受領後の物件購入となるため、事前に候補物件の選定ができないこと。このため、適合物件の確保に時間がかかる可能性がある。          コロナ感染症の拡大状況によっては、高齢者との接触（送迎）に関して一部制限が出る可能性が否めない。</p> <p>管理体制：          物件選定に関しては助成団体と相談の上、適宜対応することとする。          感染症対策としては関連医療機関からの助言指導を受け入れることとする。</p>

V.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無			
新型コロナウイルス感染症に係る事業			
①本申請事業について、新型コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動を実施している(予定も含む)	有 <input type="checkbox"/>	無 <input checked="" type="checkbox"/>	有の場合 その詳細
②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない	無 <input checked="" type="checkbox"/>	※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）	
(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績			
<p>コロナによる依存症への影響についての報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 「コロナ禍のストレス、女性のアルコール依存症の要因に」 沖縄タイムス2021.2.19、</li> <li>* 「コロナ禍で依存症相談が増加」 東愛知新聞2021.2.24、</li> <li>* 広報誌「厚生労働」2020年7月号</li> <li>* 「コロナによる自助ミーティングへの影響」 厚生労働省ホームページ <a href="https://www.mhlw.go.jp/content/000627785.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/000627785.pdf</a></li> </ul> <p>事業の必要性と実施内容について</p> <p>これまで三重ダルクでは、約5年間をかけて志摩市にアウトリーチを行っており、地域のニーズを把握できている。また、地域の各機関（志摩市、志摩市民病院、包括支援センター、障害者相談支援センター、民生委員、NPO団体等）との連携の下で本プロジェクト内容（アイデア）についての共有が行われており、実施体制が整っている。</p>			